

---

『物流 Weekly』連載原稿

『日本ロジファクトリーの物流ケース・スタディー』

“社長！それは違います！” 第119回

---

<タイトル>

「フォークリフトにマニキュアを！」

<本文>

我々は、現場の商品事故撲滅に向けた改善を行うことが多い。

この商品事故は、入荷時、ピッキング時、庫内移動時、積み込み時、荷卸し時とその作業工程のいずれにおいても発生する可能性がある。

これらの作業工程の中で共通する頻度の多い作業を見ていくと、キーとなるものとしてフォークリフト作業が挙がる。

実際、商品事故の原因として、フォークリフト作業が関連しているケースは非常に多いのが実情である。

フォークリフト関連における商品事故は、大別すると2つになる。

1つはフォークリフト作業時の落下事故。

もう1つは、フォークリフトの爪先における破損事故である。

前者は不注意や確認不足といった、「担当者の意識」に大きく左右される。

しかし、後者は未然にシカケをつくることで、大幅な事故減少につながる。

以下に、我々が提案し、大きく改善された方法を挙げる。

パレット（特に木製パレット以外に効果が大きい）のフォークリフトの爪の挿入口2ヶ所に黄色のマーキングを行い、「ここに爪をさす」ことを明確にさせる。そうすることで高齢作業員や夜間などの見づらさからくる商品へのつき刺し事故が防げる。

フォークリフトの爪の長さによる事故が多いことから、フォークリフトの爪に黄色のマニキュア、いわゆる蛍光ラインや塗りつぶしをする。これにより、「これ以上刺すと爪が出過ぎる」また「これ以上刺さないと商品が落下する」という範囲を明確にさせる。この2つの手段が有効である。

しかし、商品事故の本質は最終的には作業担当者のモチベーションに尽きる。

モチベーションというものはもともと、下がるのが当然である。

それを、現場リーダーが朝礼などで意志統一を図る必要がある。

特に気を配らなければならないのが繁忙時の

「集中力の途切れ」と「焦り」の払拭である。

いずれも広義にはモチベーション管理である。

繁忙時ほど、リーダーは頑張って「余裕」を見せなければならないし、

適度な休憩が功を奏するものである。

---